



ひょうごローズクラブ  
Hyogo Rose Club

# Scent of Roses

バラの香り

<http://www.rosehyogo.jp>

奥深いバラの世界

1

バラにまつわる話

2

ひょうごのバラ園

3

連載「世界の文献に見るバラの話」

5

バラの思い出

6

第3号  
2008.6

ひょうごローズクラブ理事であるアサミ・ローズ・セレクションの浅見均さんを訪問してお話をうかがいました。

# 奥深いバラの世界

その3

浅見さんは、赤い切り花用バラでトップシエアを占めるローテローゼを作出した日本を代表するバラの育種家です。

## バラとの関わり

浅見さんがバラに関する仕事を始めることになったきっかけの一つが、「学生時代に小麦の遺伝の研究をしていた時に伊丹ばら園を紹介してもらったこと。」と聞きました。花が好きだったので、伊丹ばら園など国内外でバラの育種や栽培を学び、1984年に(有)アサミ・ローズ・セレクションを設立し、現在に至っています。

## 作出したバラの品種



ローテローゼ

ローテローゼは、浅見さんの代表作品であると共に、赤の切り花の定番であり、栽培面積が一番多い品種です。1992年に「アサミレッド」として品種登録されました。切り花用のバラ品種は売れなければ淘汰され、一般的には5年間売れ続けるものはめったにないそうですが、品種登録後16年



登録を待つ新品种



シヨコラ

## バラに対する思い

### 最近のバラについて

最近の傾向としては、開かないバラが多くなってきたような気がする。バラはちゃんと開くものだし、三分咲き、五分咲きと変化していくところを楽しむのがバラの魅力であり、開いた方が美しいと思っている。バラを売る側や業務として

を経た現在も赤バラの最高品種として君臨しているのは驚異的な長寿命のバラといえます。

シヨコラは、1年中茶色で花形も美しく、花嫁のブーケに多く利用されています。

他にも、ミューリジック、リトル・ルチア、レッド・ジョナサン、パイオレット・ドリリー、ブルー・マジック、ピンク・ドリリーなど多数の品種があります。

バラを飾る際には開かない方が長持ちして具合が良い、という考えもあるかも知れないが、買ったバラが開かない場合一般愛好家はうれしいのだからかと思ってしまう。

### バラの品質について

「浅見さんの栽培したバラなら、2日前からブーケを作っておける。」と言ってもらえる。他とは持ちが違う。これは、肥料のやりかたが違うからであり、半分から1/3位と少ない肥料で水がよく上がるバラを作るノウハウの違いである。

### 売れるバラ品種の創出について

バラの品種で、5年位売れる品種はたくさんあるが、10年売れ続ける品種は非常に少ない。10年位売れる品種を作りたいと思う。育種を個人でやっていると、そのような品種を5〜6品種も作れる人がいれば、すごい人だと思う。育種のための作業を他の人に任せられる体制がある海外の資本であれば、もっと多くの品種を作れることも可能であろうが、個人で育種しているのであれば、数品種が限界であろう。

訪問した際、机に話題の「サントリーの青いバラ」が飾られていました。サントリーの青いバラの栽培指導をしておられるとのこと。浅見さんの栽培技術は、最先端の技術でつくられたバラの栽培にも活かされています。

バラに対する熱い思い、育種家、栽培家としての自信を強く感じた取材でした。

浅見 均 あさみ ひとし

1948年(昭和23年)兵庫県生まれ。栽培面積が最多のローテローゼ、シヨコラなど切り花用バラ品種を作出したバラの育種家。伊丹ばら園、ドイツ、岐阜県の河本バラ園などでバラの育種を行い、1984年加東市に(有)アサミ・ローズ・セレクションを設立。新品种の育成と切り花の生産を行っている。



バラにまつわる話

# ブルガリアのバラ祭り

山本淑子アロマセラピストスクール  
校長 山本 淑子

ブルガリアは北緯43度、北海道富良野と同じ緯度に位置し、南はギリシャ、トルコ、東は黒海を臨みます。通称「バラの谷」は、ソフィア空港から東へ130kmほどの距離にあり、バルカン山脈とスレドナ・ゴラ山脈に挟まれた地域で、谷間や峡谷といったイメージではなく広大なバラ畑が広がっている所でした。カザンラク市を中心に、カルロヴォ、プロブディフの地域があり、この一帯を地元では「バラの谷」と呼んでいます。バラ（ダマスクローズ）は16世紀後半にオスマン・トルコによって持ち込まれ、現在では世



民族舞踊大会

界のバラ香料の8割を占める産地としてその地位を確固たるものにしていきます。バラの谷の冬は寒く、5〜6月にかけては毎日ジヨウロでまいてい



収穫されたバラの花

るような恵みの雨がバラ畑に降ります。この適度な湿度が花に含まれる精油の蒸発を抑え、精油成分を豊かに育みます。この地のバラ祭りは、1903年に収穫祭として第1回が催されたのが始まりと言われています。近年になって、シヤネル社や有名な香料会社・化粧品会社の幹部が「ローズ・フェスティバル」と称してこの季節に各地から集まり、同時に観光客も増えて大フェスティバルとして定着するようになりました。祭りはバラの開花時期に左右され、毎年変わるようですが6月の第一日曜日から一週間位実施されています。私がカザンラクホテルにチェックインした日は、ロビーで民族衣装を着た若い男女が真っ赤なバラ酒で

出迎えてくれました。夕刻になるとバラ公園で民族舞踊大会が始まり街中が賑やかなお祭りムード一色になります。みんなで輪になって手をつなぎ、ステップを踏みながら熱気むんむんで音楽に合わせて踊ります。少々体力ではリズムについていきません。バラ祭りの昼の見せ場は、若いきれいな女性たちのバラ摘みです。その年を選ぶ

られた「バラの女王」たちと一緒に、一輪ずつバラを摘みます。参加者の多くはバラ摘みをさっさと辞めて、写真撮影やビデオ撮りに躍起になります。バラは棘が痛くて、そうそう摘めるものではありません。爪もたちまち真っ黒になります。バラの花弁に蠟がたっぷりあることを、ブルガリアで初めて体験しました。舞踊団も音楽と踊りで祭りを盛り上げ、最後は摘んだバラを畑の一箇所に山盛りに集めてお酒をふりかけ収穫を祝うお祈りをします。そのあとは、なんとそのバラを足で踏みつけながらまた踊りを始めます。無残に踏まれた大量のバラは、花びらに含まれている精油と



バラ畑の前を行く舞踊団



ひょうごのバラ園  
クローズアップ

# 播磨中央公園

## 四季の庭 ばら園

ひょうごローズクラブ発足から1年が経過し、県内各地でバラにちなんだイベントなどが多く行われ、バラの花がより一層人の心に広がっている様に感じられます。

バラの花は、「花の女王」と呼ばれ、その気品あふれる姿かたちや香りによって昔から広く人々に親しまれ、花束を贈り物にされたり、花瓶に生けてお部屋に飾られたり我々の生活の一部としてとけ込んでいます。

播磨中央公園のバラ園は、五峰山麓のなだらかな丘陵地に広がる公園の南端、「四季の庭」の一角にあります。

ばら園の中央には豊かな水がわき出る噴水を配し、背景には滝があり雄大な自然の中、約140種4,000株のバラを見ていただけます。



四季の庭の滝

このバラの多くはモダンローズと呼ばれる種類で、1867年以降に作られたもので、それ以前に作られたバラは、オールドローズと呼ばれています。

ヨーロッパのオールドローズは一季咲きで、初夏にしか花の姿を楽しむことができませんでした。

モダンローズの多くは四季咲きで、この性質は日本や中国のバラとの交配によって獲得されたものです。

アーチやポールにからむつる性のバラや、大輪で一枝にひとつ、又は少数の花をつける、バラと言えば思い浮かぶ形のハイブリッドティー、中輪で比較的長い間、次々と花を咲かせる房咲き性のフロ

リバンダなど、様々なモダンローズの美しく可憐な姿とバラの高貴な香りを楽しんでいただけます。

また、春と秋のバラのもっとも美しい期間に「ばらまつり」を開催し、期間中、鉢バラやバラグッズなどを販売します。

この「四季の庭」はバラ園のほかロックガーデン、フラワーバレー、テーマガーデンなど個性的な庭園があり約600種12万本の様々な植物が息づいており、何度来ても飽きない庭園となっています。

皆様のお越しを心よりお待ちしております。



四季の庭 ばら園全景

ひょうごのバラ園  
クローズアップ

# 須磨離宮公園

## 180種4000株の「王侯貴族のバラ園」

当園のバラ園は旧離宮にちなみ、王様、貴族、皇族、芸術家などの名前を冠したバラを中心に植栽しています。元英国皇太子妃の名を冠した‘ダイアナ・プリンセス・オブ・ウエールズ’やグレース・ケリーに捧げられた‘プリンセス・ドゥ・モナゴ’、イングリッシュローズの‘グラハム・トーマス’など、それぞれのバラの名前や色・香りを楽しんで頂けます。もう一点注目して頂きたいのは、全体の風景としてのバラ園です。海・山を借景とした広大なスケールの洋風噴水庭園に調和した、ベルサイユ宮殿を思わせるローズガーデンです。かつて天皇の別荘地として選ばれた当地は、昔も今も、風光明媚な須磨の海岸や紀伊半島・淡路島まで一望できる絶景の場所です。噴水を軸にした左右対称の整形式庭園を高台から見下ろし、貴婦人の気分を味わって下さい。

## フレンチローズ

近年おしゃれなバラとして人気のフレンチローズを集めたコーナーが誕生しました。‘ピエール・ドゥ・ロンサール’や‘ナエマ’など、品種選びから地ごしらえ、オベリスクの製作等一切をバラのボランティアさんたちが中心で行いました。バラのトンネルを目指して育成中です。



レストハウスからバラ園を望む

## 街頭バラ園と「バラの歴史と文化園」

昭和29年に発足した「神戸バラ協会」は、市民が身近にバラを楽しめるよう基金を積み立て、東灘区の本山や県庁前のバラ園などの街頭バラ園を建設しました。役割を終えて取り崩した基金により昭和55年に作られたのが中門広場にあるバラ園です。現在はバラの改良の歴史がたどれるコーナーとなっており、黄バラのルーツ、‘ロサ・フォエティダ’やモダンローズ第一号‘ラ・フランス’など、原種やオールドローズ中心に歴史的に重要なバラを植栽しています。幻のバラと言われるコウシンバラの野生種(ロサ・キネンシス・スポンタネア)もあります。荻柴樹徳氏が1983年にこの種を再発見し、英国王立園芸協会(RHS)の権威・

ヴェイチー賞を受賞しました。



王侯貴族のバラ園

## 離宮100年、源氏物語1000年のバラ

今年は公園の前身「武庫離宮」の造営が決定してから100年です。完成した大正3年当時、離宮の庭園にバラが63株植えられました。石垣から垂れ下がる強健なナニワイバラは、その名残であると思われます。当時の温室植物リストも残っており、‘ラ・フランス’をはじめ、初期のモダンローズを中心とした12品種が保有されていました。

また、今年は源氏物語千年紀ですが、当地での在原行平の月見をモデルに物語を構想し、須磨の巻から書き始めたといわれる、ゆかりの地でもあります。‘若紫’や‘夕霧’といった登場人物の名のついたバラや、物語に登場する「そうび」(コウシンバラ)も展示しています。

風光明媚な須磨の海をバックにしたバラを楽しんで下さい。

# 「バラと共に育てる植物」その2

ホルタス26・夏号 1993年 HORTUS No. 26 Summer 1993



## 世界の文献にみるバラの話

兵庫県立淡路景観園芸学校  
主任景観園芸専門員 能勢 健吉

前号に引き続きホルタス誌 (HORTUS) 26・夏号 1993年の記事紹介を行う。【バラと共に育てる植物】(Companions for Roses Jane Taylor p.67-74) を要約して紹介する。今回はバラの足元を飾る植物の部分の前号に引き続き私見を交えながら紹介する。

### 灌木性バラと組み合わせる小球根

園路から灌木性のバラに近づくと、春に咲く秋植え小球根類を植えてみるのも良いだろう。例としてあげるならシラー、チオノドクサ、クロッカス・トマシーニアヌス (Crocus tommasinianus) 注1、クロッカス・クリサンサス (Crocus chrysanthus)、アネモネ・ブランダ (Anemone blanda) などが適切なものであろう。バラの葉が茂るころにこれら小球根類の葉は枯れ始める。

注1: クロッカス・トマシーニアヌス (Crocus tommasinianus) は高温多湿に弱い。他の種類は関西地方でも丈夫に生育する。

### 茶色系で組み合わせる

### バラとカレックス

フロリバンダ系やハイブリッド・ティー系のバラを他の植物と上手く組み合わせると、将来にわたっても栽培され続けるだろう。以前に管理していた庭で私は茶色味を帯びた切り花用のバラを育てていた。園芸種ジュリア (Julia's Rose)、



カレックス Carex の銅葉種

ファンタン (Fanta) (フロリバンダ系園芸種アンバーライト (Amberlight)、カフェ (Cafe)、ベスパー (Vesper)、平らな花をつけるオールドハイブリッド・ティー系園芸種ミセス・アールン・ウオード (Mrs Aaron Ward) などである。これらのバラの周りには銅色の葉をつけるカレックス、コーマンズの園芸種ブロンズ・フォーム (Crocus comans 'Bronze Form) を植えると剛直な感じのバラの足下を和らげてくれる。クニフォリアの園芸種モデスタ (Kniphofia 'Modesta) はピンクとクリーム色が組み合わせられた色彩である。ポテンティラの園芸種デイドーン (Potentilla 'Day Dawn) は杏色の花をつける灌木である。注2: バラの植え込みの後方にはくすんだ黄や橙色の花をつけるブッドレヤの園芸種ウエイリアーナ (Buddleja 'x Weyeriana)、や羽毛状の葉を持つブロンズウイキョウを植え付ける。



ツボサンゴ園芸種パレスパープル Heuchera var. diversifolia 'Palace Purple' の銅葉種

### ジギタリスとバラ

ジギタリスはクラシック・ローズと雰囲気良く似合う。また、灌木性バラの球形に茂った樹型とジギタリスの長く伸びた穂状の花茎はコントラストが楽しめる。組み合わせの推奨例としては、アルバ・ローズがお勧めであろう。くすんだ黄赤のジギタリスグラウンディフローラ (Digitalis

grandiflora) は暗赤色のモスローズの園芸種ヌイス・デ・ヤング (Nuits de Young) と組み合わせると良い。他に組み合わせの事例は多く列挙にいとまがない注3。

注2: ポテンティラの園芸種デイドーンとブッドレヤの園芸種ウエイリアーナは高温多湿に弱い。他の種類は関西地方でも丈夫に生育する。  
注3: ジギタリスにはルテア種など他にも使いやすいう種がある。

### 最後に

バラには様々な種類があり、また個人の好みもまたそれぞれである。ゆえに組み合わせる植物には個人の好みも反映される。土地に合わせた植物選択も大切である。私の心の中の風景ではあるけれども、バラの庭の向こうにはカルーナとドッグローズ (Rosa canina) が生い茂り、家の傍には新しい園芸種が植えられている。そして壁にはバラが誘引されている。隣家では手入れされたサンザシの生け垣の横に灌木性やハイブリッド・ティーのバラが植えられ、その足下には白いアリッサムや紫のロベリアが植えられている。そんな景色を理想である。



灌木性バラとジギタリス

6月に入り、あらかたのバラの一番花は咲きおさめ、替わってアジサイの美しい季節となって参りましたが、バラも二番花が咲き始め、来年用のシュートも元気良く伸びてきました。

加古川ばら会は、昭和30年に美しい町づくりのひとつとして、バラづくりが提唱され発足いたしました。現在、会員は、東播磨地域を中心とした112人で、事業活動は、



春のばら展の開催、夏と冬の剪定及び施肥の講習会、自己流の病害虫の予防の仕方や土づくりなどのミニ講座、研修旅行、加古川市のオープン

ガーデン事業への参画、老人ホームのデイサービス利用者のバラ見学会の受け入れなど身近な活動を主に進めています。とりわけ、1人が100本のバラを育てるのは素晴らしいことですが、それより「100人の1本」をキーワードに、より多くの方と共にいろいろなバラづくりを進めればと願っています。

5月17日、18日に第51回加古川ばら展を加古川市との共催のもと、兵庫県をはじめ、ひょうごローズクラブや近隣市町等の後援を賜り、お陰様を持ちまして、開催することができました。当日は、会員はもとより、愛好家の皆様が丹精込めて育てられたバラ約300本が出品され、鑑賞下さった方は、昨年同様3000人近くにのぼり、遠方からの方や旧友や初めての方との出会いがあり、また、バラづくり講座（初めてのバラづくり、接ぎ木、育種）にも多くの方に参加していただきました。

今回のばら展では、従来の計画を見直し、最優秀賞の



知事賞、優秀賞としての市長賞に加えて、ひょうごローズクラブ会長賞が新しく授与されることとなり、夢が大きく膨らみました。



また、特別賞も

初めて設けましたが、その特別賞は5部門で、なかでも「マイローズ賞」は会員の育種による、世界でひとつしかないバラが出品され話題を呼びました。また、ばら展では切り花が中心でありましたが、ガーデニングを丸ごと出品してもらおうと写真部門をつくり、ローズヴィレッジ賞を、鉢植えの部門にはばら夢賞を、そして、初めて出品された方の中から新人賞を贈りました。今ひとつの特別賞は、香りの大賞です。香りは人それぞれ好みもありますが、審査を視覚障害者福祉協会の会長様にお願いし、優しい甘い香りのバラ「サンクチュアリー」が選ばれました。



なお、視覚障害者福祉協会から40人を超える会員が来場され、香りを楽しみながら、花の大きさ、形、花びらの柔らかさ、葉トゲに実際に手で触れられ、バラの魅力やつくり方などバラ談義に花が咲き、ひと味も

ふた味も違う感動の交歓会となりました。

また、ばら展にあわせて、中国四川大地震及びミャンマー・サイクロンの被災者支援をと義援金を募ったところ、19,547円集まり、早速、財団法人加古川国際交流協会へ届けました。

最後になりましたが、ばら展やバラづくりを通じて、いろいろな方々との出会いがあり、交流が図られたことに加古川ばら会会員一同、心から感謝しております。

更にバラづくりに邁進いたしますので、皆様のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

加古川ばら会  
会長 吉田 正己